

新千歳空港の深夜・早朝時間帯を活用した実証運航について

【運航の内容】

- ・ 運航日
平成 25 年 5 月 3 日(金)、5 月 5 日(日)、5 月 6 日(月)
- ・ 運航時間・区間 (各日 2 便)
羽田 21:30 発→**新千歳 23:00 着** (現行の最終便 新千歳 22:30 着)
新千歳 23:00 発→羽田 24:40 着 (現行の最終便 新千歳 22:40 発)
- ・ 運航会社
AIRDO
- ・ 運航機材
B737-500 座席数 126 名
- ・ 往復便を合計した搭乗率
3 日: 約 2 割、5 日: 約 7 割、6 日: 約 6 割

【検証事項】

- ・ **ターミナルビル等の営業時間の延長、交通アクセスなど、枠拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた課題。**

I 関係者からの事後聞き取り結果

上記便の運航終了後、交通アクセスを提供したバス会社、空港ビル、店舗から、当日の対応等について聞き取りを実施。

■ 聴取結果の概略

○ ターミナルビルの営業体制

- ・ 国内線ターミナルビルの閉館時間を延長して対応 (23:00→23:30)

見送り客等を含めた利用者全員の退館のため閉館時間を 30 分延長した。利用者の滞留もなく、予定した延長時間内に閉館できた。

- ・ 2 店 (制限エリア内 1、制限エリア外 1) が営業時間を延長

ANA FESTA ゲートラウンジ 1 号店 (ANA・AIRDO 最終便まで→23:00)

営業延長による売上げの増加があったが、現状では収支的に厳しく、枠拡大後の営業時間延長には否定的である。従業員の帰宅の手段については最終電車の後になるので、車通勤者を勤務に当て、車通勤者以外はタクシーで帰宅させた。

ローソン到着口店 (21:00→23:30)

21 時から 23 時の間の営業時間の延長に関しては多少の見込みを感じた。今回は人件費、その他経費の増加から収支はプラスにはならなかったが、枠拡大後の恒常的な営業時間延長について検討したい。

○ 交通アクセス

- 北都交通(株)が新千歳空港発の札幌都心行き路線バスを各日1便増便。

通常路線バス最終便であるAIRDO39便(新千歳空港22:30着)に接続する便と比較しても、利用者は多く、当初の想定を上回っていた。新たに就航する便の増加数、3次交通手段の確保などの課題があるが、枠拡大後の恒常的な路線バスの増便については検討したい。

II 利用者アンケート結果

5月5日の運航便の搭乗者を対象に、道からAIRDOに依頼して、深夜便や新千歳空港の利便性などに関する利用者アンケートを実施。

■ 集計の概要

(1) 羽田空港→新千歳空港便(回答者数86人)

※ 主な回答の抜粋(回答率が5%未満のもの、「その他」や「無回答」等は掲載していない)

利用者の住所	利用者の職業
道内 96.5% 道外 3.5%	会社員・会社役員 48.8% 学生 20.9% 公務員 12.8% 自由業・自営業 5.8% 主婦 5.8%
移動の目的	深夜便を利用した理由(複数回答)
観光 37.2% 親戚・友人訪問 25.6% 帰省 16.3% ビジネス 10.5%	時間を有効に使える 68.6% 航空運賃が安かった 38.4% 他便が満席であった 7.0%
飛行機を降りた後の目的地	目的地までの交通手段
札幌市 64.0% 千歳市 11.6%	自家用車 48.8% 路線バス(札幌までの臨時便) 34.9% 親戚・友人の出迎え 10.5%
新千歳空港に着いた時に開いていけば使いたいと思う店(複数回答)	あれば利用したい交通手段・方面
コンビニ・ドラッグストア 50.0% 買物・飲食しない 32.6% 飲食店 17.4% 土産品 14.0%	札幌方面行きJR 59.3% 札幌方面行き定期路線バス 9.3%
仮に札幌への臨時バスが運行されなかったら当便を利用したか	深夜・早朝に新千歳空港を離発着する便が現在以上に増えれば利用したいと思うか
利用した 62.8% 利用しなかった 34.9%	深夜便を利用したい 55.8% 早朝便を利用したい 17.4% 深夜便も早朝便も利用したい 17.4% 利用したくない 7.0%

- ・ 殆どの利用者が道内居住者である。東京などで観光、親戚・友人訪問、帰省をした帰りに、当便が利用されたことが分かる。深夜便を利用した理由は、時間を有効に使える、航空運賃が安かったことを挙げている人が多い。
- ・ 飛行機を降りた後の目的地を見ると、札幌市、千歳市が多い。目的地までの移動手段は、自家用車、臨時増便された路線バス、親戚・友人の出迎えが多い。札幌市に向かう人の路線バスの利用率は約半分（札幌市を目的地とする人の50.9%）であり、自家用車（同38.2%）等を超えた。
- ・ 新千歳空港に到着した時に開いていけば使いたいと思う店は、コンビニ・ドラッグストアが多かったが、買物・飲食しないという回答も多い。
- ・ あれば利用したいと思う交通手段とその方面は、札幌方面行き JR、札幌方面行き定期路線バスが多い。
- ・ 今回の実証運航のため特別に増便した路線バスが無かった場合、この実証運航便を利用したか否かを聞いたところ、回答者の3分の1以上が、臨時バスが運行されなければ利用しなかったと回答している。
- ・ 新千歳空港の深夜・早朝時間帯の離発着便が現在以上に増えた時の利用の意向を聞いたところ、利用に肯定的な意見が9割を超えている。

(2) 新千歳空港→羽田空港便（回答者数55人）

※ 主な回答の抜粋（回答率が5%未満のもの、「その他」や「無回答」等は掲載していない）

利用者の住所	利用者の職業
道内 3.6% 道外 92.7%	会社員・会社役員 70.9% 学生 9.1% 主婦 7.3%
移動の目的	深夜便を利用した理由(複数回答)
帰省 41.8% 観光 36.4% 親戚・友人訪問 9.1%	他便が満席であった 56.4% 北海道での滞在時間を有効に使える 40.0% 航空運賃が安かった 25.5% 明朝早くから渡航先で予定がある 5.5%
飛行機を降りた後の目的地	新千歳空港までの交通手段
東京都内 54.5% 東京都以外 43.6%	JR 36.4% 親戚・友人の車 18.2% レンタカー 16.4% 自家用車 12.7% タクシー 9.1%
新千歳空港にはどちらから来たのか	
札幌方面 83.6% 苫小牧方面 1.8%	
新千歳空港には何時頃に到着したか	新千歳空港で利用した店(複数回答)
20時前 40.0% 21時～22時 32.7% 22時以降 16.4% 20時～21時 9.1%	飲食店 40.0% 搭乗待合ロビーの売店 36.4% 土産店 32.7% 利用していない 21.8% コンビニ・ドラッグストア 9.1%
新千歳空港で夜遅くまで開いていけば使いたかったと思う店(複数回答)	深夜・早朝に新千歳空港を離発着する便が現在以上に増えれば利用したいと思うか
土産店 63.6% 飲食店 43.6% コンビニ・ドラッグストア 29.1% 早く空港に来るので営業時間の延長不要 5.5%	深夜便を利用したい 63.6% 早朝便を利用したい 10.9% 深夜便も早朝便も利用したい 9.1% 利用したくない 9.1%

- ・ 殆どの利用者が道外居住者である。道内で帰省、観光をした帰りに、当便が利用されたことが分かる。深夜便を利用した理由は、他便が満席であった、北海道での滞在時間を有効に使える、航空運賃が安かったことを挙げる人が多い。
- ・ 飛行機の降りた後の目的地は、東京都内が多い。
- ・ 新千歳空港にはどちらから来たのかを見ると、札幌方面からが多い。新千歳空港までの交通手段は、JR、親戚・友人の車、レンタカーが多い。観光目的で当便を利用した人の新千歳空港までの交通手段は、レンタカー（観光目的利用者の45.0%）が最も多くJR（同30.0%）を上回る。
- ・ 当便に搭乗するために、何時頃に新千歳空港に到着したかを見ると、出発時刻（23：00）の2時間以上前である20時前が最も多く、21時～22時、22時以降が続く。
- ・ 実証運航当日に新千歳空港でどのような店を利用したのかを見ると、飲食店、搭乗待合ロビーの売店、土産店が多かった。一方、利用していないという回答者も多かった。
- ・ 新千歳空港で開いていれば使いたかったと思う店は、土産店、飲食店、コンビニ・ドラッグストアという回答が多い。
- ・ 新千歳空港の深夜・早朝時間帯の離発着便が現在以上に増えた時の利用の意向を聞いたところ、利用に肯定的な意見が8割を超えている。

■ 利用者からの意見

（空港ビルの営業時間の延長について）

- ・ 新千歳空港内の店舗営業時間の延長を望む声があった。

（交通アクセスについて）

- ・ 新千歳空港着便の回答者から、臨時路線バスが運航された札幌駅行以外に交通手段が無いことや、千歳市への公共交通手段が無いこと、JRが利用できないことを不便な点として挙げる意見があった。

（実証運航についての評価）

- ・ より遅い時間帯の便を望む声や、深夜便の増加を期待する意見があった。

Ⅲ 枠拡大時の旅客便の円滑な運航に向けた主な課題等

<ターミナルビル等の営業時間の延長>

- 深夜時間帯における各店舗の営業時間の延長について利用者のニーズは高い。店舗の営業時間の延長のためには旅客利用者による需要があることが前提となるが、そのためには、ある程度まとまった時間帯における旅客便発着回数（利用者）が必要である。

<交通アクセスの改善>

- 現行の公共交通機関（JR・バス）の空港ターミナルにおける運航ダイヤの充実（終発時間の後ろ倒しなど）が必要である。

交通アクセス改善のためにも、旅客利用者による需要があることが前提となるが、そのためには、ある程度まとまった時間帯における旅客便発着回数（利用者）が必要である。